

# 「みんなが生きやすい社会へ」

小田原市立城北中学校

三年 木村 美音

「生きるのに値しない命」これはある国の人種衛生的な政策におけるフレーズである。人種衛生学とは人種や民族の「優劣」を科学的に解明し、社会的に適応させようとする学問の一分野であり、現在では批判的に評価されている考え方だ。かつてその国では、身体障がい者、知的障がい者は社会には無用であり、価値がないという考え方が広がっていた。そしてその政策は遺伝性でかつ治癒の見込みのない精神障がい者を決まった施設に送り込み、そこで殺害するというものであった。この政策によって約15万人から20万人の障がい者が犠牲になったと言われている。そして現代の日本でも同じような事件が起きてしま

った。相模原の障がい者施設での殺傷事件である。この事件はその障がい者施設の元職員によって、入所者や職員が負傷したり、亡くなってしまった。犯人は障がい者に対してひどい偏見を持っており、「重度障がい者は人間であるが、人ではない」などと発言しており、これは前述した国での考え方と似ている。

私の弟は中度の知的障がいがある。じっとしてられず、ずっと歩き回りぶつぶつ言ったり笑ったりしている。でも私にとっては、一緒にゲームをしたりたまにけんかしたり、普通の兄弟と何ら変わらない愛しい弟である。ただ、それは家族だから慣れているだけかもしれない、と弟が中学生になる直前、急に心配になった。私と弟が通っていた小学校のみんなは理解がありとても優しくだったが、違う小学校から来る人にいじめられるのではと不安になった。でもいざ入学すると楽しそうにっていて安心した。逆に「中１に弟がいるよね！めっちゃかわいくていい子だね！」同級

生に言われた。小学校の頃からよくかわいいと言われていたので、やはりどこにいても私の弟はかわいいのだなと思って安心した。

一回だけ弟が私の教室に入ってきたことがある。私たちはリコーダーを共用していて、それを返しに来たのだ。授業が始まる数分前、周囲が急にざわっとした。不思議に思いクラスを見渡すと、なんと弟がいたのだ。私の名前を大きな声で呼んでいて、目が合うと「みお、はいこれ返しに来たよ！」とリコーダーを渡された。急いで受け取り弟を教室から出そうとすると、ある男子に「〇〇くん！僕を覚えている？」と話しかけに行ってしまった。小学生の頃何度か一緒に遊んだことを弟は覚えていたらしい。その男子は急な出来事に困っていたようだったので、私は焦って「ほら、迷惑だから！もう授業始まっちゃうよ」と教室から追い出した。弟がいなくなった後もまだ少し教室はざわついていた。授業が終わり友達に「お姉ちゃんしてたじゃん」といじら

れるのを軽く流して、その男子のところに行き「ごめん、なんか弟が：」というところ「なにが？別に気にしてないし、覚えていてくれたことにびっくりだよ」と笑いながら返してくれた。その男子は意識せずにそう言ったのだと思うが、その言葉は弟を認めてくれたのと同時に、私の心も安心させてくれた。

生きるのに値しない命なんてない。そもそも命に「値する」「値しない」なんてことはない。それでもはじめに書いたような事件が起きてしまうのは、人間は無意識に差別をしているからだ。もちろん偏見や不公平な扱いをすることもそうだが、良かれと思ってしたことと差別と捉えられてしまう可能性がある。例えば、これは障がい者にはできないだろうと勝手に判断することや、本人の意思を無視して過剰な保護をすることも、差別になってしまうことがあるのだ。ではどのように接するのが一番良いのか。その人の症状や特性にもよるが、私は障がいの有無に関わらず同じ

ように接するのが一番だと思う。もちろん援助をすることも大事だが、あくまでもそれは本人の望んだときだけ。そうすることで差別にはならず、本人たちの自立へとつながっていくのだ。

弟の周りの人たちは変に気を使うことなく、優しく接してくれる。きっとそれが楽しく学校に通える理由になっていると思うのだ。そしてそれが私たちが通っている学校だけでなく私たちの地域へと広がったら。そして国全体、いや全世界に広がっていったら。さすがにスケールが大きすぎるかもしれないが、もしそうになったら障がい者が生きやすい社会になっていくのではないかと私は思う。そして過去に起きてしまった事件を風化してはならない。絶対に繰り返してはいけない。自分には関係ないからと見て見ぬふりをせず、まずは自分の考え方から変えていくべきだ。生きる価値がない人間などいない。人ではない人間などいない。多種多様な人間がいるから

こそ、この世界は面白いし、視野も広がる。  
現に私たち家族は弟の可愛らしい言動に笑わ  
せてもらったり、ものすごい記憶力に驚いた  
りしている。私は弟がこの家族を選んで生ま  
れてきてくれたことに感謝している。